

H25シカ年度 幌別-岩尾別地区における密度操作実験(2年目)案

1. 平成25シカ年度 捕獲事業内容(幌別-岩尾別地区2年目)

- ・平成 25 シカ年度からは幌別地区も含めて密度操作実験を開始。
- ・幌別地区では、囲いわなの設置を検討する。
- ・岩尾別地区では、仕切柵を使った囲いわな式捕獲を主要な捕獲手法と位置付け、手法の確立を目指すとともに、昨年度に引き続き、囲いわなと冬季閉鎖中の道道上での流し猟式 SS(積雪期)を実施する。

2-1. 仕切柵を用いた囲いわな式捕獲

- 期間： 1～3 月
 - 実施候補地： 岩尾別地区(海岸側ササ地)
 - 仕様等： 大面積のササ地を仕切柵により囲い込み、巨大な囲いわなのようにして大量捕獲する。
 - 検討事項等： 低労力で大量のシカを誘引・捕獲できるか
 - 捕獲目標頭数： 約 130 頭
 - 捕獲物処理； 生体で譲渡し、有効活用することを検討する。
- *実施の運用方法については後述の 2 案。

2-2. 囲いわなによる捕獲 (新設 1・再設置1)

- 期間： 12 月中に設置完了、1 月～3 月に餌付けと捕獲を実施
- 実施候補地： 幌別川河口付近(新設)、岩尾別川河口左岸(再設置)
- 仕様等： 自動落下式ゲートによる無人監視、無人捕獲。除雪の省力化が可能な高さ4 m の壁面構造。
- 検討事項等： ー
- 捕獲目標頭数： 幌別 180 頭(岩尾別川河口の初年度実績)、岩尾別 90 頭(前年度実績の 50%)
- 捕獲物処理 生体で譲渡し、有効活用。

2-3. 流し猟式 SS(積雪期・岩尾別)

- 期間： 2～4 月(2 月から餌付け開始、3 月から週 1 回程度捕獲を実施)
 - 実施候補地： 道道知床公園線(岩尾別～知床五湖)、岩尾別ふ化場取り付け道路(ヒグマ出現で囲いわな閉鎖の場合)
 - 検討事項： 仕切柵を利用した囲いわな式捕獲への影響
 - 捕獲目標頭数： (約 80 頭)
- ※ただし、仕切柵による捕獲と競合して捕獲効率が低下すると予想される場合は実施しない。
- 捕獲物処理： 死体で譲渡し、有効活用。有効活用施設の処理能力を超える捕獲があった場合は、一部廃棄物として有償処分。

※捕獲目標頭数合計： 400頭

表 1. 平成 25 シカ年度の幌別—岩尾別地区におけるエゾシカ密度操作事業（案）

手法	8～9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
			スポットライト センサス		*シカ越冬地に移動開始		シカ海食台地縁、道路法面に集中		スポットライト センサス
				冬期道路閉鎖		冬期利用(岩尾別～五湖)	猛禽繁殖期		
						流水期			
									4月20日頃 岩尾別ゲートオープン
1. 仕切柵を用いた 巨大囲いわな式 捕獲 (岩尾別)		設置工事	餌の搬入			餌付け+ 捕獲			→ ヒグマの冬眠明けをもって捕獲終了
2. 囲いわな (岩尾別河口 再設置) (幌別河口付近 新設)	設置交渉	ワナ設計	設置工事	馴致・ 餌付け		餌付け+ 捕獲			→ ヒグマの冬眠明けをもって捕獲終了
									*捕獲はシカを十分に誘引した上で10頭未満の小群をこまめに捕獲する。
3. 積雪期流し猟式 SS (岩尾別)		関係機関との調整、協議				馴致・餌付け	餌付け+ 捕獲		

図 1. 平成 25 シカ年度の幌別ー岩尾別地区におけるエゾシカ捕獲予定地



仕切り柵を用いた大型囲いわな式捕獲の作業イメージ

[パターンA]

除雪や餌付け等の労力を極力省き、低コストで効率よくシカを捕獲する運用方法。

検証ポイントは、1月は低労力で多数のシカを誘引できるかどうか、2月は誘引餌を用いて多数のシカを誘引できるか。

【準備】

- ・柵の完成は2013年10月予定（捕獲部完成は12月）。
- ・積雪前の11月下旬に牧草ロール（最低5つ）を仕切り柵内の海岸側に搬入。
- ・牧草ロールはシカに食べられないよう、ラップにくるんだまま保管。
- ・柵完成後、柵の扉はすべて開放して馴致。本格的な積雪の前に捕獲用扉aを除いて閉鎖。
- ・柵内外に自動撮影カメラを複数台設置し、誘引状況をモニタリングする。
- ・捕獲用の監視カメラを設置し、道道付近からリアルタイムにわな内部の状況を確認できるようにする。

【点検・餌づけ作業】

- ・1月前半は天然エサのみ、1月後半は牧草ロールを開封して、2月はさらに誘引効果の高いアルファルファヘイを用いて誘引し、誘引状況を観察。
- ・点検（及び2月の餌付け）は1~2回/週程度。

【捕獲・搬出】

- ・柵内に入場するシカが上限に達した(シカの数が増加しなくなった)時点で捕獲を実施。扉の閉鎖は、自動撮影カメラのモニタリング結果から最大数のシカが入る時間帯に実施。
- ・扉の閉鎖の手順は、捕獲用監視カメラで大型囲いわなの内部にシカを確認→シカを刺激しないように迂回しながら扉まで接近→手動で扉を閉鎖。
- ・搬出方法は2案。
 - a) 生体で搬出：捕獲部でシカを輸送箱に入れて生体のまま搬出。搬出車両進入のための除雪が可能か要検討。
 - b) 死体で搬出：搬出車両が捕獲部まで進入できない場合は、捕獲部でとめさし（銃・電殺など）後、大型そりにのせて道道まで搬出。
- ・捕獲は3月までを予定。ただし、岩尾別でヒグマの活動が頻繁になった時点で捕獲終了。

[パターンB]

シカの学習効果を利用して最大限の頭数を捕獲しようとする運用方法。

昨年度流し猟式 SS で成果のあった「音を使った餌付け誘引」により、捕獲可能性のあるシカを最大限捕獲する。

【準備】

A 案と異なるのは以下の通り。それ以外は A 案と同一。

- ・捕獲用に使用する扉は a と b の計 3 か所。
- ・捕獲用監視カメラは設置しない。

【点検・餌づけ作業】

- ・1 月は牧草ロールを使用して、2 月以降はさらに誘引効果の高いアルファルファヘイを用いて誘引し、誘引状況を観察。
- ・1 月の点検は 1~2 回/週程度。
- ・2 月以降の餌付けは毎日実施。ラッパを鳴らしながら餌付けを行い、音による条件付け（ラッパ音が鳴ると餌が出てくることを学習させる）を試みる。
- ・餌づけ作業の際、大型囲いわなに入場するシカの数进行カウントする。

【捕獲・搬出】

- ・餌づけ作業の際、大型囲いわなに入場するシカの数が上限に達した段階（大型囲い柵外にシカがいない状態）で捕獲を実施。
- ・捕獲は 1 シーズン中に 2-3 回程度を想定。
- ・扉閉鎖の手順は、音を出しながら餌づけ作業を行いシカを誘引→シカを刺激しないように扉まで接近→手動で扉を閉鎖。
- ・搬出方法は 2 案→A 案と同一
- ・捕獲は 3 月までを予定。ただし、岩尾別でヒグマの活動が頻繁になった時点で捕獲終了。



図 2. 仕切り柵を用いた大型囲い柵 設置図